

1

1-1 服装について

森林で活動する前に知って欲しいこと

水筒

熱中症や体力消耗を防ぐための水は欠かせません。なお、川や溪流などのなま水はエキノコックス感染（林内はキタキツネの生息地）の恐れがありますので、水分補給は必ず持参の水筒の水を飲むようにしてください。



雨具（カッパなど）

雨を防ぐのはもちろん、防寒対策にも使えます。



手袋（軍手など）

切り傷すり傷などのケガを防ぐため、軍手などの手袋をしましょう。



リュックサック

両手が使えて便利。防水加工が施された軽いナイロンタイプがオススメです。

靴

履きなれた運動靴やくるぶしまで隠れた専用のトレッキングシューズ。ひもはきちんと結んでおきましょう。



帽子

紫外線や熱中症を防ぎ、雨や草の露で濡れるのを軽減してくれます。また、小枝などの軽い落下物程度のものであれば、頭部の保護にも役立ちます。



タオル

汗をふいたり、首に巻くと虫の侵入も防げます。いろいろな用途がありますので、一枚持っているとい便利です。

長そで・長ズボン

ケガや虫さされを防ぐために長そで、長ズボンを着用しましょう。すそ締まりの良いものがベストです。

服の色（ハチ対策）

ハチが敵意を見せる黒っぽい色を避け、周りから目立つ明るい色を選びましょう。

応急セット 軽い切り傷、すり傷などの止血や消毒に携帯しておくで安心です。



もしもの時の 応急処置に



切り傷、すり傷

傷口から入り込んだ異物を水で洗うなどして取り除き、消毒してからガーゼを当てます。切り傷は傷口を圧迫して止血し、消毒してから傷絆創膏などを貼りましょう。

目に異物が入った時

角膜は傷つきやすいので、手でこすってはいけません。必ず、水や目薬で洗い流しましょう。



**緊急の際は速やかに病院で
処置してもらいましょう**

1-2 国有林のルールとマナー



① ゴミは必ず持ち帰りましょう

森は生物たちの大切な生活の場です。きれいな森を未来に残していくためにもゴミはかならず持ち帰りましょう。捨てられたゴミはヒグマやキツネなどを不用意に近づける原因にもなります。



② 火は山火事の原因になります

山火事の多くは森林内での火の取り扱い、特にタバコや焚き火の不始末が原因でおこっています。火の取扱いは、確実に消火を確認するなど特に注意をしましょう。



③ 樹木や花を傷つけることはやめましょう

森林に咲く野の花や樹木はとてもきれいなものです。だからといって必要もないのにむやみに採ったり、傷つけたりすると森の美しい姿が壊れてしまいます。この豊かな森がいつまでも続いていくよう、植物は大事に扱いましょう。



④ 動物にエサをあげるのはやめましょう

森林を散策していると、ひょっこりとかわいい動物たちが顔を出すことがあります。かわいさのあまり、ついついエサをあげたくなりますが、そこはグッと我慢。野生生物にむやみにエサを与えると人を恐れなくなるなど、彼らの暮らしを変えてしまい、様々なトラブルの原因にもなります。出会った動物たちは静かに見守りましょう。



⑤ 危険な場所への立ち入りはやめましょう

立入禁止などの看板がある場所やロープが張ってある場所には入ってはいけません。安全のためにこのルールは必ず守りましょう。



⑥ トイレは散策前にすませましょう

排泄物などで森林内をむやみに汚さないよう、森に入る前にはトイレをすませておきましょう。また、森林内でやむなく用をたす場合は、危険な場所は避け、携帯トイレなどをうまく利用するようにしましょう。

1-3 森林内での危険と危険の回避について

危険性が高く特に注意が必要な生物たち

■ ウルシ類

ツタウルシやヤマウルシなどのウルシの仲間は、触るとひどくかぶれることがあります。触らないようにしましょう。



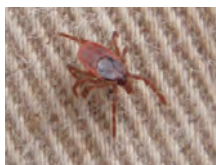
ツタウルシ



ヤマウルシ

■ ダニの仲間

春から夏にかけて、山林や野原のササ、歩道や車道の草むらにもついています。肌が露出しない服装を心がけてください。かまれた場合は病院で適切な処置を受けてください。



■ スズメバチ

スズメバチは体長3～4cmと大きく、刺された場合には、激しい痛みとともに皮膚が腫れ上がり、最悪の場合、死に至ることもある大変危険な生物です。活動が活発になる夏から秋にかけては特に攻撃性が高まり注意が必要です。



ハチ対策について



- ハチは黒い色に反応しますので、白っぽい服装をして帽子をかぶりましょう。
- ハチは甘いものや香水のにおいに近寄ってきます。香水をつけない、甘い飲み物はしっかりフタをするなどしましょう。
- ハチは急な動きに敏感に反応します。出合ってしまった場合は、急な動きをせずに落ち着いて行動しましょう。
「カチカチ」と威嚇音を発生するハチを見たら、いきなり逃げ出さず、目を合わさないようにしてじっとして、ハチが去ったら静かに後ずさりですの場を去りましょう。ただし、ハチから攻撃を受けた場合は、ハチは仲間を呼んで次第に増えるので非常に危険です。一刻も早くその場から離れましょう。
- ハチに刺された場合に備え、ポイズンリムーバー（毒吸い出し器）、抗ヒスタミン剤（軟膏）を携帯すると良いでしょう。
- 緊急の際は安静にして速やかに病院で処置を受けましょう。

ヒグマについて

ヒグマは、本来むやみに人を襲うことの少ない動物ですが、その大きな体と強い力は、人間にとってはとても危険な存在でもあります。ただそれは森林を生活の場にするヒグマにとっても同様で、人間はできれば出合いたくない存在なのです。特に子連れのヒグマは、我が子を守るために近寄る侵入者に対し、攻撃的になることがあり、さらに危険度が増します。

この「学びの森林」はヒグマの生息地になっており、林内でヒグマに出合う可能性が十分考えられます。そうした、お互いが望まない思わぬ出会いを避けるために、森林に入るときは次のことに注意して、慎重な行動をとることが必要です。

ヒグマに出合わないために

- 音を出しながら歩きましょう。
人の存在に気づくと、ヒグマは人を避けます。熊鈴（くますず）やラジオ、あるいは、声を出しながら歩くなどして人の存在を知らせましょう。
- ヒグマの新しいフンや足あと、エサを食べた跡を見つけたらすぐに引き返しましょう。
すぐ近くにいる可能性があります。慌てずに落ち着いて引き返しましょう。また、事前にヒグマの出没情報が多く出ているエリアには、最初から立ち入らないことも大切です。



ヒグマのフン

ヒグマに出合ってしまったら

- 大声、走って逃げる、石投げなどは絶対にやめてください。
まずは落ち着くことが大切です。いきなり逃げるなどの行動をせず、様子を見ながら静かにゆっくりとその場から離れましょう。
- ヒグマが近づいてきたら…
ヒグマの目をにらみつけてください。目をそらさずにヒグマの動きを見ながらゆっくりと後退してください。この時、リュックや服などの持ち物をそっと置いてヒグマの注意をそらすと、時間がかせげます。ただし、置いてきた荷物を取りに引き返すことは絶対にやめてください。非常に危険です。



1-4 活動前・活動時の安全対策

森林はヒグマ、ハチやアブ、ダニ以外にも、倒木、枯枝の落下といった、怪我や事故につながる要素がたくさんあるので、これらに対しても十分注意を払い回避していきましょう。

また、活動場所の状況以外にも、参加者の体調についてもスタッフは活動前に把握しておく必要があります。

● 事前に情報を把握します

- 参加者の年齢、構成、個々の体力、体調、持病や怪我の状況はもちろん、スタッフの健康状態について把握します。
- ヒグマの出没情報、林道の通行、がけ崩れの発生情報などについて、最寄りの森林管理署で情報を収集します。

● 現地の危険箇所を把握します

- 活動箇所の下見を事前に行います。倒木、枯れ木、落枝、崩れの他、ヒグマの痕跡、ハチの巣の有無についても確認します。
- 当日も活動前には見回りをを行い、活動場所、移動経路の安全確認を行います。
- 携帯電話がつながる範囲を確認しておきます。
- 新しいヒグマの痕跡、悪天候などによる倒木の恐れなどがある場合は、活動を中止とすることも必要です。

● 緊急時の対応を準備しておきます

- 救急箱の携帯、無線の準備、緊急連絡先の把握、緊急搬送用車両を配置しておきます。

● 安全担当者は事前に決めておきます

- 緊急時の対応など、スタッフの責任、役割分担等は、事前に取り決めておきます。

● 保険への加入

- もしもの場合に備えて主催者は賠償責任保険、参加者・スタッフは傷害保険に加入しておきます。

● 活動前に参加者への注意喚起を行います

- ハチが近くにきた時の対応やササの葉で目をこすらないようにすることなどを伝えます。

● 主催者は二次災害の防止に努めます

事前情報の確認機関

石狩森林管理署
連絡先：011-563-6111

緊急連絡先

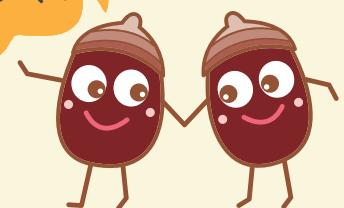
119 番 (救急)
110 番 (警察)

危険な場所には近づかない

林内は傾斜地が多く、歩道沿いの崖や崩落地と接する場所などに立ち入り禁止のロープや柵が張られています。危険な場所には近づかないようにしましょう。また、枯れ枝などの落下物にも注意しましょう。



危険な場所には
近づかないでネ



1-5 北海道の森林



全国の森林面積の22%を占める広大な北海道の森林

北海道は土地面積の71%が広大な森林に覆われ、全国の森林面積の22%を占めるなど、我が国を代表する豊かな森林を擁する地域であり、2005年に世界自然遺産に登録された知床半島をはじめ、原始の姿を残す貴重な自然環境が今も数多く残されています。

そのほとんどが亜寒帯林に属する本道の森林は、トドマツやエゾマツなどの針葉樹とミズナラやカンバ、イタヤ、ブナなどの広葉樹で構成される天然林、トドマツやカラマツ、スギなどの針葉樹を主体に植えられた人工林があり、四季折々に多様な表情を見せてくれます。

これらの森林は、住宅資材や紙の原料など私たちの生活に欠かすことのできない木材を供給するばかりでなく、国土の保全や水資源のかん養、地球温暖化をもたらす二酸化炭素の吸収・貯蔵、レクリエーションの

場や野生生物のすみかの提供など多様な機能を有し、私たちにとってかけがえのない貴重な財産となっています。

■日本の国有林

図の濃い緑色の部分が我が国における国有林です。全国的に見ても北海道の森林が占める割合が群を抜いて高い事がわかります。

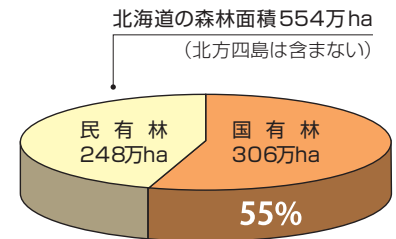


1-6 国有林の仕事

北海道森林管理局が管理経営する国有林

北海道の森林面積は554万ヘクタール、北海道森林管理局が管理経営する国有林野は、306万ヘクタールで、北海道の森林面積の55パーセント、大雪山や日高山脈などの^{せきりょうさんち}脊梁山地の大部分を占めています。一方、民有林は248万ヘクタールとなっています。

北海道森林管理局では、このように広大な国有林野を、木材の安定的な供給源、温室効果ガス削減に寄与する吸収源、水土保持をはじめ道民からの様々な要請にこたえる公共財、多様な生物の生息や生態系がある場として適切な管理を進めています。



近年の主な取り組み (2012年)

◎森林・林業再生への貢献

地域の要請や期待に答えるため、民有林と連携し、人材育成や効率的な森林整備を進めています。また、国有林をフィールドとして活用し、先進的な林業技術の展開や普及を図るとともに、安定した木材の生産・供給など、森林・林業の再生に組織を挙げて取り組んでいます。

◎公益重視の管理経営の推進

■生物多様性の保全

国有林野は、原生的な天然林から人工林、湿原等多種多様な植生を有するとともに、希少種を含む様々な生物が生息・生育する「種や遺伝子の保管庫」となっています。また、農地、河川、海といった森林以外の生態系とも結び付いていることから、我が国全体の生態系ネットワークの根幹として、生物多様性の保全を図る上で重要な位置を占めています。北海道森林管理局では、希少野生動植物の保護管理のための取り組みを進めながら、国有林の独自の保護林制度により、貴重な植物群落や自然環境、遺伝資源などを保全・管理しています。また、環境破壊が懸念される箇所の保全管理や地域住民との協働による自然再生の活動にも取り組んでいます。

■エゾシカ対策

エゾシカの影響が全道に広がりつつあることから、森林などへの被害の実態把握を行い、囲いワナやくくりワナによる捕獲を実施しています。また、林道の除雪作業の実施や市町村をはじめとした関係機関との連携により、効率的な駆除に向けた取り組みを行っています。

■森林とのふれあい

協定の締結により国有林を活動の場として利用できる取り組みを進めています。この取り組みでは、国民参加により植樹体験や間伐体験などの森林づくり、森林環境教育の場などとして利用されています。



野幌森林公園での広葉樹林調査



くくりワナの設置状況



環境教育の実施状況

1-7 簾舞「学びの森林」・フィールドマップ

学習コース

総延長 1,650m

■ポイント案内

- ① 針葉樹の複層林
- ② エゾマツとトドマツ
- ③ 針広混交林
- ④ 針葉樹の単層林から複層林へ
- ⑤ ハリギリはどこから？
- ⑥ 水辺の植生
- ⑦ 水辺の木々
- ⑧ カラマツ林に育つ広葉樹
- ⑨ 森林の空間
- ⑩ 降り注ぐヨーロッパの香り
- ⑪ 光のコントロール
- ⑫ 森林の恵み



学習コース入口付近

コース入口

学習コース入口まで1.8km

林道ゲート

600m

-  学びの森林看板
-  コース案内板
-  ベンチ・テーブル



学びの森林看板付近

1.

森林で活動する前に
知ってほしいこと

